

1-1. 保全活動の推進効果の検証

【本議題の目的】

全国各地で行われている活動団体等による様々な取組は、国内の里地里山の恵みを未来に引き継いでいくうえで重要な役割を担うものであるため、活動主体自らが取組を評価することにより活動を継続・拡大していけるような指標や評価手法を検討し、里地里山保全の取組の活性化を図る。

⇒本年度調査結果をもとに、活動団体等が自らの活動評価を行うための「活動の自己評価シート」を作成

■個々の活動団体による活動の自己評価

<アンケート調査(※)>

1. 活動団体の活動状況

・どんな場所で、どんな人々が、どんな取組を行っているか

2. 調査対象活動団体に見る取組の成果
(全体としての評価)

○活動団体の活動の変化

・活動日数や取組面積
・参加人数、構成員の多様さ

○取組目的からみた状況の変化

(1)農林業を通じた持続的な管理・利用
(2)野生動植物やその生息地の保全・管理
(3)良好な景観の保全、伝統的生活文化の
智恵や技術の継承
(4)環境教育や自然体験、エコツーリズム等
の場としての利用

3. 活動団体自身による総合評価

○目的達成状況

○取組による効果、満足度

アンケート調査
の結果分析

* 取組効果の
測定・評価の
ための
**有効な
指標項目**
について検討

* 取組効果の
測定・評価の
ための
評価の基準
について検討

(参考参照)

「活動の自己評価シート」の作成

活用

活動主体が自らの活動の評価を行う

里地里山保全の取組の活性化

(今後の課題)

◇地方公共団体による施策・事業の
推進効果の評価

①里地里山と人との関わりの度合いの評価

・活動主体や参加者の拡大、多様化
・里地里山の利用の活発化

②里地里山の自然環境の状態に対する評価

・地域レベルの生物多様性や他の環境側面の改善

③活動による主体にとっての恩恵・メリットの評価

・活動主体にとっての恩恵やメリット、
活動の満足度の向上

シートによる評価結果
の集約・分析

地域レベルでの
積み上げ

全国レベルでの里地里山の保全活用に寄与

(補足調査)補完が必要な事項等の整理 など

※アンケート調査の目的

活動団体等が自らの活動目的に応じた取組の推進効果について測定・評価し、目標を設定しながら活動を進めていけるような指標や手法を検討する。

「里地里山保全活動の自己評価シート」について

＜アンケート調査の実施結果より＞

- ・活動団体の多くは、自身の活動を通じて何かしらの効果が出ている（里地里山保全に貢献している）と認識しており、活動への満足度も高い。
- ・地域住民や学校といった外部の評価を得られることがステータスとなり、活動が活発化すると認識している。
- ・各主体により収集された数量データは分散が大きく、指標とすることは不適。

- * 回答状況から、設定した指標項目の使い勝手（有効性）を確認することができた。
- * 指標項目と効果との関係に関する回答状況及び専門的知見等から、評価のための基準を設定することができた。

（今後の課題）

個々に収集されている数量データを集約・活用できるしくみづくり

【評価シート作成のねらい】

- ・個々の活動やフィールドとなる里地里山の状況を自己点検できるよう、意識して活動を進められるとよい汎用性のある指標項目の設定・提示
- ・各主体が対外的に活動をアピールできるよう、客観的評価ができる活動の成果（効果）項目の設定・提示
- ・個々の活動の継続・拡大につながるよう、活動主体自らの評価を踏まえた目標設定とモニタリングの促進

自己評価シートの構成案

I. 活動の概要: ⇒活動主体自身について、団体名称や活動内容、目的などの概要を整理		
1 活動団体の概要（団体名称、組織種別等） 2 団体の具体的な活動内容と活動目的		
II. 活動の自己評価: ⇒自身が行う活動に対して、設定された指標項目に従ってチェックを行う		
シート項目	評価の指標項目	採点の基準
1 活動する里地里山の状況	活動場所面積、土地利用状況	増減、環境状況
2 活動の広がりと多様さ	活動年数、活動頻度など 活動参加者の年齢層、広がり	年数、増減 参加者の多様さ
3 活動目的ごとにみた活動評価 （農林業）→ （景観・文化）→ （環境教育）→ （野生動植物）→	（※1） 従事者数、耕作放棄地面積など 来訪者数、行事（祭事）数など 参加者数、プログラム数など 上位種の有無、外来種有無など	指標把握状況
4 活動により得られた成果	里地里山の適切な保全・管理 活動に対する外部評価 里地里山への理解醸成 など	成果項目の チェック数

III. 今後（次年度以降）の活動目標:
 ⇒ II を踏まえて、主体自ら目標設定を行う

- 1 総合的な活動目標の設定
- 2 活動目的ごとにみる活動の効果に応じた活動目標の設定

（客観的評価）
 ●活動目的に対応して得られた効果
 指標項目ごとの増減傾向等を基準（※2）
 にして、目的に応じてどんな効果が得られたかを評価。

把握

（※1）

アンケート調査より、指標項目の把握度合い、活動における重視度の回答状況を基に抽出。

（自己点検）●自己採点

（※2）

アンケート調査結果からみた目的ごとの効果有無と指標の変化との相関度及び専門的知見等により評価の基準を設定。

(参考) 有効な指標項目の検討、評価の基準の検討

アンケート調査票

I (・団体名称、連絡先等)
(・活動場所の数)
・活動場所数の変化

II (・活動場所名称、所在地)
・活動場所の面積
・活動場所の面積の変化
・活動場所の土地利用状況

III
・団体の会員数
・活動年数
・活動頻度
・活動回数の増減
・活動者の居住地・本拠地等
・活動者の年齢層
・活動プログラム・イベント数
・プログラム等への参加者数の変化
・活動目的ごとの具体的活動内容

IV
(農林業) ・活動の効果有無
・そう思う理由
(野生動植物) ・活動の効果有無
・そう思う理由
(景観・文化) ・活動の効果有無
・そう思う理由
(環境教育) ・活動の効果有無
・そう思う理由

V 活動目的別指標項目について
・指標項目の把握有無
・変化を意識する項目
・把握項目の数値データ
・把握項目の変化状況

VI
・取組を通じた成果
・取組への満足度

(凡例: 調査結果より、以下の項目の判断根拠を記載)
指標項目抽出 評価の基準判断

回答率高 満足度との相関有

回答率高 満足度との相関有

回答率高 平均回答数3.3件

回答率高 自由回答等より

回答率高 満足度との相関有

回答率高 平均回答数1.6件

回答率高 平均回答数3.0件

回答率高 満足度との相関有

回答率、自由回答等より

・効果有無と指標の変化との相関度
・専門的知見等

把握度
重視度
・把握度高
・重視度高

回答率、自由回答等より

自己評価シート

I
1 活動団体の概要
2 活動内容と活動目的

II
1 活動する里地里山の状況
2 活動の広がりと多様さ
3 活動目的ごとにみた活動評価
4 活動により得られた成果

- 農林業を通じた持続的な管理・利用
- 良好な景観の保全、伝統的生活文化の智恵や技術の継承
- 環境教育や自然体験、エコツーリズム等の場としての利用
- 野生動植物やその生息地の保全・管理

III
1 総合的な活動目標の設定
2 活動目的ごとにみる活動の効果に応じた活動目標の設定

< 里地里山保全活動の自己評価シート（案） >

I 活動の概要（自身について、団体の概要、活動の内容や目的を整理）

I-1. 活動団体の概要について

活動団体名称	
活動主体の組織種別	
活動場所の地名・住所	

I-2. 団体の具体的な活動内容と活動目的

以下の具体的な活動のうち、あてはまるものに○（いくつでも）

< 具体的な活動内容 >

<input type="checkbox"/> 環境保全型農業	<input type="checkbox"/> 農産加工品開発・販売
<input type="checkbox"/> 耕作放棄地の活用	<input type="checkbox"/> オーナー制度の運営
<input type="checkbox"/> 森林管理手法の継承	<input type="checkbox"/> 森林、竹林等の整備
<input type="checkbox"/> 草地・田畑管理手法の継承	<input type="checkbox"/> 林産物利用技術開発
<input type="checkbox"/> 森林・農地連携による循環利用継承	<input type="checkbox"/> バイオマスエネルギー利用
<input type="checkbox"/> 農産物ブランド化	

左の欄で○をつけた場合、
対応する以下の活動目的に
○をつける（複数可）↓

< 活動目的 >

ア. 農林業を通じた持続的な
管理・利用、バイオマスなど
新たな資源としての利用

<input type="checkbox"/> 良好な景観の保全・活用	<input type="checkbox"/> 景観・文化を基盤とした新たな プログラム開発
<input type="checkbox"/> 伝統的衣食住文化の保全・活用	<input type="checkbox"/> 伝統的衣食住文化、景観の記録
<input type="checkbox"/> 伝統的な維持管理技術の継承	<input type="checkbox"/> 地域（集落）との交流

イ. 良好な景観の保全、伝統的
生活文化の智慧や技術の継承

<input type="checkbox"/> 自然観察会・ガイドツアー	<input type="checkbox"/> 学校・企業等への環境学習の場 の提供
<input type="checkbox"/> グリーン・ツーリズム、エコツーリ ズムを展開	<input type="checkbox"/> 講習会・研修会等の実施
<input type="checkbox"/> 自然体験・農林漁業体験・農村生活 体験プラン等の提供	<input type="checkbox"/> 活動リーダー等の人材育成

ウ. 環境教育や自然体験、エ
コツーリズム等の場として
の利用

<input type="checkbox"/> 野生生物生息・生育地保全	<input type="checkbox"/> 鳥獣害対策
<input type="checkbox"/> 外来生物（動物・植物）の駆除	<input type="checkbox"/> モニタリング調査
<input type="checkbox"/> 自然再生・ビオトープ整備	<input type="checkbox"/> 生息・生育状況等の調査・研究
<input type="checkbox"/> 科学的・計画的な森林管理	

エ. 野生動植物やその生息地
の保全・管理

【その他（ア～エ以外の分野での活動内容）】 ※団体による記載（任意）



II-3 「活動評価」（p3～4）
では、ア～エの活動目的ごとに
チェックします。

II. 活動の自己評価（自身が行う活動に対して、設定された指標項目に従ってチェック）

II-1. 活動する里地里山の状況

Aは活動場所の面積（複数ある場合は合計）を記入、B・Cはそれぞれあてはまるものに○をつけ、それらの点数の合計を右端二重枠内に記入。

A 活動場所の面積（単位も含めて記載）：				
B 活動場所の面積（あるいは数）の変化	・拡大傾向（活動場所が増えている）	（ ）⇒	3点	
	・変化なし	（ ）⇒	2点	
	・縮小傾向（活動場所が減っている）	（ ）⇒	1点	
	・把握していない	（ ）⇒	0点	
C 活動場所の土地利用状況	・二次林・農地・ため池など多様な環境要素が含まれモザイク的	（ ）⇒	3点	B・C合計 (里山環境点)
	・二次林中心など比較的単純な土地利用	（ ）⇒	2点	
	・農地のみなど単一の土地利用	（ ）⇒	1点	
	・把握していない	（ ）⇒	0点	
				点

II-2. 活動の広がり と 多様さ

D～Hで、それぞれあてはまるものに○をつけ、それらの点数の合計を右端二重枠内に記入。

D 活動継続年数	・10年以上	（ ）⇒	3点	
	・10年未満	（ ）⇒	2点	
	・2～3年	（ ）⇒	1点	
	・把握していない	（ ）⇒	0点	
E 年間活動回数	・増加傾向	（ ）⇒	3点	
	・変化なし	（ ）⇒	2点	
	・減少傾向	（ ）⇒	1点	
	・把握していない	（ ）⇒	0点	
F 活動主体が行うプログラム等への参加者数	・増加傾向	（ ）⇒	3点	
	・変化なし	（ ）⇒	2点	
	・減少傾向	（ ）⇒	1点	
	・プログラム等を行っていない	（ ）⇒	0点	
	・把握していない	（ ）⇒	0点	
G 活動に参加・協力する人々の年齢層	・幅広い世代	（ ）⇒	3点	
	・数世代	（ ）⇒	2点	
	・ほぼ単一世代	（ ）⇒	1点	
	・把握していない	（ ）⇒	0点	
H 活動に参加・協力する人々の多様さ	・地域内・外の人々がともに活動	（ ）⇒	3点	D～H合計 (里山活動点)
	・地域内での活動に地域外の人々が参加・協力	（ ）⇒	2点	
	・地域内（あるいは地域外）の人々を中心に活動	（ ）⇒	1点	
	・把握していない	（ ）⇒	0点	
				点

II-3. 活動目的ごとにみた活動評価



ここでは、I-2「活動目的」で○をつけた項目（ア）～（エ）についてのみ記入します。
2ステップまたは3ステップでチェックを行うとともに、活動の効果を確認します。

（ア）～（ウ）の活動の評価（（エ）については、次頁）

STEP 1：（ア）～（ウ）の活動目的ごとのモニタリング指標項目（※1）について、評価基準の欄の該当するもの（1～3）ひとつに○をつけます（※2の欄）。

STEP 2：※2欄の「1 または 2 に○（把握している）」の個数を数え、右端二重枠内に記入します。



客観的評価：※2欄で「1」に該当の場合、※3欄に記した効果がある活動であると評価できます。

（ア）農林業を通じた持続的な管理・利用、バイオマスなど新たな資源としての利用

※1 活動のモニタリング指標	※2 評価基準 STEP1：1～3のうち、ひとつに○		※3 客観的評価 活動の効果	STEP2： 1または2 の○の数
a. 貴団体の活動場所における農林業従事者数	1. 近年、増加傾向	()⇒	農山村の生業や土地利用が継承されている	把握点 (ア)
	2. 現状維持または減少傾向	()		
	3. 把握していない	()		
b. 耕作放棄地（放棄林）、遊休農地など人の手が入らなくなった里地里山の面積	1. 近年、減少傾向	()⇒	農山村の生業や土地利用が継承されている	把握点 (ア)
	2. 現状維持または増加傾向	()		
	3. 把握していない	()		
c. 環境保全型の農林業に取り組む農家の数（人数）	1. 近年、増加傾向	()⇒	環境保全型の農林業の取組が拡大している	/ 3点
	2. 現状維持または減少傾向	()		
	3. 把握していない	()		

（イ）良好な景観の保全、伝統的生活文化の智慧や技術の継承

a. 里地里山の良好な景観を目的とした来訪者数	1. 近年、増加傾向	()⇒	地域自慢の（残したい）里地里山景観が維持・再生されている	把握点 (イ)
	2. 現状維持または減少傾向	()		
	3. 把握していない	()		
b. 里地里山の伝統的な生活文化を基盤とした行事（祭事）への関わり	1. 維持または増加傾向	()⇒	里地里山の伝統的な衣食住文化の保全・活用に寄与している	把握点 (イ)
	2. 近年、減少傾向	()		
	3. 把握していない	()		
c. 地元住民の活動への協力・参加の状況	1. 継続的に協力が得られている	()⇒	参加者、協力者など活動にかかわる主体が増え取組が拡大している	/ 3点
	2. 関わりが途絶えがち	()		
	3. 把握していない	()		

（ウ）環境教育や自然体験、エコツーリズム等の場としての利用

a. 実施している活動への参加・協力者の数	1. 近年、増加傾向	()⇒	里地里山の価値に対する認識が向上している	把握点 (ウ)
	2. 現状維持または減少傾向	()		
	3. 把握していない	()		
b. 里地里山を基盤とした環境教育、自然体験等のイベント・プログラムの数	1. 近年、増加傾向	()⇒	里地里山とのふれあいの機会を創出している	把握点 (ウ)
	2. 現状維持または減少傾向	()		
	3. 把握していない	()		
c. 活動場所を環境学習・自然体験の場として活用する個人や団体（組織）の状況	1. 継続的に利用	()⇒	活動を通じて交流が拡大している	/ 3点
	2. 単発または	()		
	3. 把握していない	()		

(工) の活動の評価

STEP 1：モニタリング指標項目（※1）ごとに、把握の有無に○をつけます（※2-1の欄）。

STEP 2：把握している場合、評価基準に該当するかどうかをチェックします（※2-2の欄）。

STEP 3：※2-1欄で「1に○（把握している）」の個数を数え、右端二重枠内に記入します。



客観的評価：※2-2欄で「○」の場合、※3欄に記した効果があった活動であると評価できます。

(工) 野生動植物やその生息地の保全・管理

注) ※2-2欄の評価基準を満たすかどうか評価できるのは、※2-1で「1」に○をつけた場合のみです。

※1 活動のモニタリング指標	※2-1 把握状況 STEP1： 該当するものに○	※2-2 評価基準 STEP2： 以下の基準を満たす場合は○	※3 客観的評価 活動の効果	STEP3： 1の○ の数
a. 保全や研究に力を入れている動植物の状況	1. 把握している ()⇒	保全や研究に力を入れている動植物があり、それらに目立った減少・縮小傾向がない ()⇒	活動場所に生息する野生動植物が適切に保全・管理されている	STEP3： 1の○ の数
	3. 把握していない ()			
b. 活動場所で見られる動植物の種リストの作成状況	1. 作成している ()⇒	分類群の数または種リストの種数が増加 ()⇒	里地里山に生育・生息する動植物を把握できている	
	3. 作成していない ()			
c. 大型哺乳類の生息状況	1. 把握している ()⇒	著しい増加・拡大傾向がない ()⇒	活動場所に生息する野生動植物が適切に保全・管理されている	
	3. 把握していない ()			
d. ワシタカなど食物連鎖の上位に位置する動物の有無	1. 把握している ()⇒	目立った減少・縮小傾向がない ()⇒	活動場所に生息する野生動植物が適切に保全・管理されている	
	3. 把握していない ()			
e. 竹林の有無	1. 把握している ()⇒	著しい増加・拡大傾向がない ()⇒	外来種等による里地里山の荒廃を防いでいる、または影響が少ない	
	3. 把握していない ()			
f. 山菜やキノコ類の生育状況	1. 把握している ()⇒	目立った減少・縮小傾向がない ()⇒	活動場所に生息する野生動植物が適切に保全・管理されている	
	3. 把握していない ()			
g. 雑木林に咲く山野草の生育状況	1. 把握している ()⇒	目立った減少・縮小傾向がない ()⇒	活動場所に生息する野生動植物が適切に保全・管理されている	
	3. 把握していない ()			
h. 里地里山の環境を荒らしたり、他の生物に悪影響を及ぼすなど、困っている（駆除したい）外来種の有無	1. 把握している ()⇒	困っている外来種がない。又はそれらが減少・縮小傾向にある ()⇒	外来種等による里地里山の荒廃を防いでいる、または影響が少ない	把握点 (工)
	3. 把握していない ()			

Ⅱ-4. 活動により得られた成果

STEP 1：下にあげた活動の成果項目（1～10）のうち、該当するものに○をつけ、その個数の合計を表下二重枠内に記入します。なお1～9に挙げた以外の活動成果がある場合、「10」の枠内に具体的成果を記入のうえ○をつけます。

STEP 2：今後の目標とする成果項目について、右の色枠欄に○を付けます。
左太枠内との重複（現在の成果を継続的に目指す）や複数選択も可能です。

STEP 2：
今後の目標としたい
成果項目に○↓

（活動の成果項目）

STEP 1：現在の成果↓

1	活動を通じて、地域の里地里山の自然環境が適切に保全・管理されている。	()	⇒	1 ()
2	活動に対して、行政等による補助、表彰、メディアに取り上げられるなど外部の評価が得られた。	()	⇒	2 ()
3	多様な主体との連携、他団体等の支援による資金確保など、取組の実施体制が確立した。	()	⇒	3 ()
4	視察研修受入れの依頼、里地里山の保全・活用のモデル的取組として注目されるなど評価が定着している。	()	⇒	4 ()
5	地域を訪れる人が増えた。	()	⇒	5 ()
6	里地里山に対する価値観の変化、理解の醸成につながっている。	()	⇒	6 ()
7	住民どうしの新たな交流など、活動を通じて関係する地域（集落）内のコミュニティ活動が活発化した。	()	⇒	7 ()
8	里地里山の保全・活用に向けた人材の確保、育成につながっている。	()	⇒	8 ()
9	里地里山の保全・活用に向けた機運や新たな取組が生まれている。	()	⇒	9 ()
10	その他（ある場合は具体的な成果項目を記入） ※団体による記載（任意）	()	⇒	10 ()
		成果点	/10点	

Ⅲ-1ハ

<自己評価結果>

Ⅱ-1（1～4）で採点した二重枠内の結果を以下の表内に記入し、右の太枠内に現在の活動の合計得点を算出します。（Ⅱ-3の把握点については、活動目的（ア～エ）が複数の場合は、その合算を記入）

				ア イ ウ エ							
Ⅱ-1 里山環境点 点	+	Ⅱ-2 里山活動点 点	+	Ⅱ-3 目的別把握点 点	+	Ⅱ-4 成果点 点	=	今回の自己評価点は 点			

☆自己評価を継続的に行い、評価点をつけていくことで、自身の活動を経年的に比較・評価できます。

平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度	平成	年度
	点		点		点		点		点

...

Ⅲ. 今後（次年度以降）の活動目標（Ⅱの結果を踏まえた、団体自身による目標設定）

Ⅲ-1. 総合的な活動目標の設定

(1) では、前ページ（Ⅱ-4）の右色枠内で○をつけた成果項目の番号に○をつけ、その項目を今後の活動目標とします。また、目標達成に向けた具体的活動を予定している場合は、(2) に内容を記載。

(1) 活動全体の目標：1() 2() 3() 4() 5() 6() 7() 8() 9() 10()
(2) 目標達成のための具体策（記載方法自由：項目別（1～10）でも、活動全体についてでも可） ※団体による記載（任意）

Ⅲ-2. 活動目的ごとにみる活動の効果に応じた活動目標の設定

- (1) では、現在の結果としてⅡ-3の※3欄で活動の効果があったと評価された場合に○をつけます。
 (2) では、以下の「活動の効果」を今後の目標とする場合に○をつけます。（重複可、複数可）
 (3) では、目安となる指標の数値目標や、地域特性や団体の規模等に応じたその他指標を設定します。

活動目的	活動の効果	(1) Ⅱ-3 ※3結果	(2) 今後の 目標		目安となる指標 （*Ⅱ-3参照）	(3) 数値目標、 その他の指標
ア （農 林 業）	農山村の生業や土地利用が継承されている			⇒	・農林業従事者数 ・耕作放棄地等面積	
	環境保全型の農林業の取組が拡大している			⇒	・環境保全型農家数	
イ （良 好 な 景 観 や 文 化）	地域自慢の（残したい）里地里山景観が維持・再生されている			⇒	・里地里山来訪者数	
	里地里山の伝統的な衣食住文化の保全・活用に寄与している			⇒	・伝統的行事（祭事）への関わり	
	参加者、協力者など活動にかかわる主体が増え取組が拡大している			⇒	・地元住民の参加協力状況	
ウ （環 境 教 育 等）	里地里山の価値に対する認識が向上している			⇒	・活動への参加・協力者数	
	里地里山とのふれあいの機会を創出している			⇒	・里地里山関連のイベント、プログラム数	
	活動を通じて交流が拡大している			⇒	・活動場所を活用する個人、団体等	
エ （野 生 動 植 物）	活動場所に生息する野生動植物が適切に保全・管理されている			⇒	・大型哺乳類の生息状況 ・食物連鎖上位種の有無 ・山菜・キノコ類の生育状況 ・山野草の生育状況	
	里地里山に生育・生息する動植物を把握できている			⇒	・動植物種リスト作成状況	
	外来種等による里地里山の荒廃を防いでいる、または影響が少ない			⇒	・竹林の有無 ・困っている外来種の有無	